

令和元年度第1回愛知県環境教育等推進協議会会議録

1 日時

令和元年8月28日（水）午前10時から11時45分まで

2 場所

あいち環境学習プラザ「セミナー室」

3 出席者

委員 15名

4 傍聴人

なし

5 会議の概要

(1) 開会

(2) あいさつ

森田委員

(3) 会長の選任等

千頭委員が会長に選出され、大鹿委員が会長代理に指名された。

(4) 議事

- ・各主体の環境学習等に関する取組について
各委員から資料1-1～1-8に基づき取組について説明。
事務局から資料1-9に基づき環境学習等に関する取組について説明。

(5) 報告事項

- ・環境調査センターにおける環境学習について
事務局から資料2に基づき報告。
- ・SDGs未来都市の選定について
事務局から資料3に基づき報告。

【質疑応答・要旨】

（新海委員）

国は、「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」の実施計画について、今年度見直しをしている。「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」から5年経って今年度見直しをかけているが、愛知県は様々な事業においてその趣旨を反映しないのか。

(事務局)

ESD の世界会議後、年に 1 回環境省からの呼びかけで、「持続可能な開発のための教育円卓会議」が開催され、今後の環境教育に係る情報を提供されている。本県も出席し情報収集しているところである。

(新海委員)

協議会の進め方について、今後の開催予定と今年度は何を達成しようとしているのかをお聞きしたい。

(事務局)

協議会は、基本的に年 2 回開催を予定しており、次回は 3 月位に開催したいと考えている。

今年度は、昨年度作成した「行動計画実践事例集『学びを行動につなぐサポート BOOK』(以下「サポート BOOK」という。)」について、実際に活用を図ることで学びを行動につなぐことができる人づくりを進めていきたいと考えている。

(大鹿委員)

「愛知県環境学習等行動計画 2030 (以下「行動計画 2030」という。)」によって本当に県民の質が上がるのか、しっかり評価しなければいけない。県として、今年の課題を明確にし、各委員で議論をするべきではないか。

(新海委員)

大鹿委員の発言のとおり、「行動計画 2030」については、「五つの力」評価対象事業を評価しなければいけない。「あいちの未来クリエイト部」については大鹿委員と一緒に、学習の中で生徒にどのような変容が見られるのかを考察している。それを視野に入れないと 5 年後の具体的な評価はできないのではないか。

(事務局)

「五つの力」評価対象事業については、「行動計画 2030」(38 ページ) 表 2 「五つの力」評価の対象の主な事業例と指標例の中で、評価の対象とする主な事業例ということで考えており、昨年度第 2 回の協議会において、事業実施結果を「事業の実施によりみられた学習者の変容として」評価シートにまとめ、お示しした。

次回の協議会では、今年度事業実施結果を評価シートにまとめ、各委員に議論をしていただきたいと考えている。

また、県では環境学習のモデルとなるものを市町村に普及していくことが、効果的だと考えており、県の事業の課題や市町村の環境学習についての実態を把握して、県としての方向性を次回お示ししていきたい。

(森田委員)

平成 29 年度に「行動計画 2030」を策定し、それに基づいて評価について検

討してきた。良い点悪い点等のアウトカムを評価することは難しく、今年度事業が終わらないとわからない部分がある。委員には多方面から御意見や提案をいただきたい。また、各委員の意見を踏まえて、中間整理した段階で御報告することも検討したい。

(千頭会長)

昨年度は「サポート BOOK」の作成が大きな目的であったが、今年から来年にかけては、「行動計画 2030」をいかに進行管理していくのか、そこが我々委員の役割だと考える。森田委員の発言のとおり、この「行動計画 2030」は行政だけではなく、県民皆さんそれぞれの立場でやらなければいけないことが書いてある。それ以外は、評価が難しいところなので、その評価の仕組みは是非とも事務局でさらに御検討いただきたい。

(6) 閉会